



つばさ

唐津市立北波多中学校

— 令和7年11月19日 —
第17号 文責 校長 渡辺 景輔

〒847-1201 唐津市北波多徳須恵 303
Tel 0955-64-2009

【学校教育目標】

「**自他を大切にし 互いを認め合い 共に高め合う生徒の育成**」

◇ 唐津市青少年意見発表大会より ◇

11月8日（土）に第14回唐津市青少年意見発表大会が高齢者ふれあい会館りふれホールで行われ、本校からは3年生の[]さんが意見発表を行いました。当日は、たくさんの人の前で緊張しながらも、前を向いて堂々と自分の考えを発表してくれました。北波多中の代表として大変誇りに思いました。

『人口減少問題について』

北波多中学校 3年 []

今、日本では人口減少が急速に進んでいると言われています。ニュースなどで「少子高齢化」という言葉をよく耳にしますが、これは子どもが少なく、高齢者が増えているという意味です。実際、日本の人口は2010年をピークに減り続けており、このままでは私たちが大人になるころには、今よりもずっと小さな国になってしまうかもしれません。だから、私はこの人口減少問題について考えました。

まず、人口減少が進むと、どのようなことが起きのでしょうか。一番大きいのは、働く人が少なくなるということです。学校の先生や病院の医師、電車やバスの運転手やお店の販売員など、社会を支える人が不足します。すると、便利に暮らしていた生活がだんだん難しくなる可能性があります。特に地方では、すでに人口が減って、学校が統合されたり、バスが走らなくなったりしているところがあります。

また、人口減少が進むと経済にも影響があります。買い物をする人が少なくなると、お店の売り上げも減ります。会社も成長しにくくなり、税金が少なくなってしまう。税金が減ると、道路や学校、病院などを整備する資金も不足します。さらに、高齢者が増えることで、年金や医療費は増えるので、若い世代の負担が重くなる心配があります。では、どうすればいいのでしょうか。私は大きく三つの方法があると考えます。



一つ目は、子どもを育てやすい環境を作ることです。保育園をもっと増やしたり、子育てにかかる費用を減らしたりすれば、安心して子どもを持てる家庭が増えると思います。特に日本では、女性が働きながら子育てをするのが難しいと言われています。お父さんもお母さんも協力して家庭と仕事を両立できる社会になれば、子どもを産み育てたいと思う人が増えるはずです。

二つ目は、外国の人を受け入れることです。すでに日本にはたくさんの外国人が働きに来ています。これからはもっと積極的に外国の人を仲間として迎え入れ、日本社会の一員として一緒に暮らしていくことが必要だと思います。文化や言葉の違いはありますが、多様な人々が集まることで社会は活気づきます。

三つ目は、技術を活用することです。ロボットや人工知能を使えば、人で不足を補うことができます。例えば、介護や農業、交通などで新しい技術を導入すれば、少ない人でも社会を支えることができます。日本はもともと技術力の高い国なので、この力を活かせば人口が減っても生活の質を維持できると思います。

もちろん、これらの方法には課題もあります。子育て支援には多くのお金が必要ですし、外国人の受け入れには社会の理解が不可欠です。技術も万能ではなく、人の温かさを完全に代わることができません。しかし、私たちが「人口が減っているのは仕方がない」とあきらめてしまえば、日本の未来は暗くなるばかりです。課題があっても、一つずつ工夫をして進めていくことが大切だと思います。

私はこの問題を考える中で、「将来どんな社会を作っていくかは私たち次第だ」と感じました。人口が減ることを危機としてだけ見るのではなく、新しい社会を作るチャンスとしてとらえたいです。そのために今からできることは何かを一人一人が考えることが大切だと思います。例えば、中学生の私たちにできることは大きくはないかもしれませんが、しかし、将来の働き方や家族の在り方について考えること、外国の人と仲良くすること、技術や科学に興味を持つことなど、すぐに始められることはあります。そうした小さな積み重ねが、日本の未来を変えていく力になるのではないのでしょうか。

私は将来、人口が増える日本を見てみたいです。学校に子どもたちの声があふれ、街に活気が戻る。そんな未来を創るために、私たちがまずこの問題を「自分のこと」として考えることです。私たちの世代が未来を担うのですから、希望をもって前に進んでいきたいです。

◇ 「北波多ふれあいフェスタ」ボランティア活動参加 ◇

11月9日（日）、北波多ふれあいフェスタが開催され、本校からも生徒たちがボランティア活動に参加しました。

唐津市社会福祉協議会南部支所様より協力についてのお礼

あいにくの雨天となりましたが、無事に募金活動を終えることができました。ご協力いただいた生徒さんには、感謝しております。お礼申し上げます。

募金額 金33,513円

